



—東地中海・北アフリカ地域ニュース—

イスラエル・パレスチナ：イスラエル軍がガザに侵攻(2)

7月17日午後10時半頃（日本時間18日午前4時半頃）から開始された地上戦は、5日目に突入した。地上戦開始後、パレスチナとイスラエルの死者数増加のペースは急激に早まり、21日時点で、パレスチナ側の死者は570人前後、負傷者3500人前後、イスラエル側の死者は27人（兵士25人、民間人2人）になった。

7月17日にガザ東部に侵攻したイスラエル軍は当初、境界から数キロの地域に留まった模様である。その後、イスラエル軍は、19日夜から20日朝にかけて第二段階の攻撃に移り、ガザ市の東部地域に対する集中的な砲撃と空爆を開始した。イスラエル軍は、同地域にハマースのロケット弾製造工場やロケット弾発射のためのトンネルがあると見ている。22日時点でもイスラエル軍は同地域への攻撃を継続している模様である。一方、イスラエルの攻撃にもかかわらず、ハマースなどガザの武装勢力はロケット弾攻撃を続けている。21日には約100発のロケット弾がイスラエル側に撃ちこまれており、攻撃の勢いは衰えていない。ハマースは、地下トンネルを利用した戦法でイスラエル軍に抵抗しているようだ。イスラエル側は、テロリストを130人（20日時点）殺害したと発表している。

エジプトは、ハマースが拒否した無条件の停戦案をまだ取り下げていない。ハマースは、ガザ封鎖の解除や、2011年にイスラエル軍兵士との捕虜交換で釈放されたが、今年6月に西岸で入植者少年3人が殺害された事件の捜査で再逮捕されたハマース活動家の釈放などの条件が満たされない限り、停戦に応じない立場を変えていない。国連の潘事務総長は、カタール（20日）、エジプト（21日）を歴訪している。オバマ大統領はケリー国務長官をエジプトに送り、同長官は21日夜カイロに到着した。PAのアッバース大統領は、エジプト、トルコ、カタールなどを歴訪して停戦について協議している。

#### 評価

地上戦が開始されたことで、懸念されたガザ住民の被害が急激に増加している。国際社会は、一般市民の犠牲者をこれ以上増やさないため停戦を模索しているが、イスラエルとハマースは、戦う姿勢を変えていない。ハマースの無責任な武装闘争とイスラエルの過剰な防衛行動の狭間で、ガザ住民の被害だけが増大している深刻な状況である。

2009年1月のイスラエル軍のガザ侵攻の際は、ほとんど応戦しなかったハマースであるが、今回はイスラエル軍との地上戦を展開しつつ、ロケット弾攻撃を続けている。ハマースとの戦闘で、21日までにイスラエル兵士25人が戦死した。イスラエル側の死者は27人になり、2009年の地上戦の際の死者13人の倍以上になった。しかし、イスラエル国民から人的損失の大き

さについて政府・軍を非難する声は上がっていない。イスラエル国民は、兵士が戦死し、市民の犠牲者が出て、ハマース攻撃の手を緩めないことを支持している。ハマースは、テルアビブやエルサレム、北部のハイファをロケット弾攻撃したことを戦果と見なしているかもしれないが、イスラエル側からすれば国家の安全保障上の脅威にはなっていない。そのためイスラエルには、ロケット弾攻撃を停止させるために、ハマースに政治的な譲歩を行う考えはない。ただイスラエル軍としては、ハマースが長距離ロケット弾を再び使用しないようにするため、ハマースの保有するロケット弾や発射施設を破壊する必要がある。

停戦案を提案しているエジプトは、ガザのハマースと敵対している。エジプトには、ガザ住民の犠牲を最小限にする考えはあっても、ハマースを勝利者にする意図はないだろう。仮にハマースがトルコやカタルに働きかけて別の停戦案を提示しても、ガザと境界を接するエジプトが同意しない限り、その停戦案は機能しない。ハマースは、イスラエルとエジプトと敵対しながら、両国が了承しない限り実現不可能なガザに対する封鎖の解除を停戦条件にすることにこだわっている。ガザ封鎖は、ハマースのガザ統治失敗の帰結であり、軍事力や軍事的戦略で解決できる問題ではない。

20日時点では、イスラエルのネタニヤフ首相は、今回のガザ侵攻の目的であるハマースの地下トンネルの破壊は数日で終わるとの見通しを表明した。当面、組織の存続の危機に直面しているハマースが停戦条件での要求レベルを下げる可能性は低い。イスラエル軍が作戦の目的を完了したと判断するタイミングが当面のポイントかもしれない。他方、ガザ住民の被害の急増が今後も続くようであれば、イスラエルに対する停戦への国際的な圧力は、作戦終了前であってもさらに高まるだろう。

エジプトがハマースと敵対している現状では、エジプトは停戦の中立的な仲介者ではない。トルコはエジプト、イスラエルとの関係が悪化している。カタルの域内の大国に対する影響力は弱い。現在停戦を仲介している首脳の中では、PAのアッバース大統領が、ハマース、イスラエル、米国、エジプトなど紛争の当事者、域内外の関係国と最も良好な関係を維持している。アッバース大統領が、停戦実現で重要な役割を果たせば、ガザでの政治的な権威を高め、統一政権の権限強化に寄与するかもしれない。

(中島主席研究員)

---

©本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 公益財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799